

大豆特報

魚津市
魚津市農業技術者協議会

大豆は、単作及び麦跡ともに順調に生育し、開花期を迎えています。適期の防除と畦間かん水などで、収量や品質向上に努めましょう。

病虫害防除

～大豆の生育と病虫害の発生にあわせて、適期に実施する～

体系		回数	散布農薬名	10a当たり散布量	収穫前日数
基本防除	液剤 (※ドローンなど無人航空機による防除)	1回目	アミスター20フロアブル	16倍 0.8ℓ	7日
			スミチオン乳剤	8倍 0.8ℓ	21日
		2回目	トライフロアブル	8倍 0.8ℓ	14日
			トレボンエアー	8倍 0.8ℓ	14日
	粉剤	1回目	トライトレボン粉剤DL	3kg	14日
2回目		トライトレボン粉剤DL	3kg	14日	
随時	ハスモンヨトウ(液剤)		プレバソンフロアブル5	16倍 0.8ℓ	7日
	葉焼病(シュウレイのみ)		Zボルドー	500倍 0.8ℓ	—

※葉焼病の防除は、7月下旬～8月上旬(開花期)が目安です(ドローンなどの無人航空機では散布できません)。

※基本防除の1回目は「莢が伸び切った頃」、2回目は「豆が十分に膨らんだ頃」が散布時期の目安です。

畦間かん水

～開花期頃から9月上旬まで乾燥に注意しましょう～

- 晴天日が3日以上続いてほ場が乾いてきたら、早めに畦間かん水を行って下さい。
- かん水は十分な水量を確保し、短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに落水しましょう。ため水は湿害が発生し逆効果です。



水分不足で、大豆の葉が裏返る前に畦間かん水しましょう！

【畦間かん水の効果】

- ① 莢数の確保
 - ・ 落花・落莢の防止(青立ちの発生防止)
- ② 百粒重の増加
 - ・ 根の養水分吸収量の増加
 - ・ 光合成の促進
 - ・ 根粒による窒素固定能の維持
- ③ 品質の向上
 - ・ ちりめんじわ粒の発生防止
 - ・ 茶色のしみ状斑紋粒(高温に伴う物理的損傷)の発生防止

ちりめんじわ



しみ状斑紋

